

学報

2015. October

vol. 54

特集

Special Feature

オープンキャンパス2015開催

西日本医科学学生総合体育大会開催

研究紹介

新任教授挨拶

臨床研究センター開設



Contents

特集	オープンキャンパス2015を開催しました	3
	西日本医科学生総合体育大会が開催されました	4
	研究紹介	5
	新任教授挨拶	6
	臨床研究センターを開設いたしました	6
	「奈良医大キャンパスだより」第2号を発行しました	7
	平成26年度計画の業務実績に対する評価について	7
	奈良医大「未来への飛躍」基金の目指すもの	8～9
	「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました	10
	本学の未来への飛躍をサポートする「未来への飛躍水」が発売されました	10
クラブ紹介	合気道部／東洋医学研究会	11
図書館だより	検索マスターへの道(第5回)	12
産学官連携だより	イノベーション・ジャパン2015～大学見本市&ビジネスマッチング～ IT pro EXPO2015・デジタルヘルスDAYSに本学細井学長が特別講演	13
	学報編集委員会からのお知らせ	13
Campus News	チェンマイ大学附属病院看護師の受入研修を実施しました	14
	平成27年度ナラ・シェイクアウト(奈良県いっせい地震行動訓練)を実施しました	14
	第5期かしはら健康サポーター養成講座開幕	14
	平成27年度看護学科国際看護論Ⅱ チェンマイ海外研修報告	15
	東日本大震災被災地の福島県内で学生がボランティア活動を行いました	15
	6年一貫教育授業「コンソーシアム実習2(早大・奈良医大連携講座)」が開講されました	15
	第4回大和漢方医学薬学セミナーを開催しました	16
	小児センターに海遊館がやってきました	16
	平成28年度科学研究費助成事業に係る講演会及び応募申請説明会を開催しました	16
	平成27年度前期 公開講座「くらしと医学」を開催しました	17
	解剖慰霊祭を執り行いました	17
	実験動物慰霊祭を執り行いました	17
Winner Report	大和漢方医学薬学に関する調査・研究助成事業の採択者が決定しました	18
	特別研究員等の書面審査において有意義な審査意見を付した専門委員として 表彰されました～消化器・総合外科学 中島 祥介教授～	18
	本学附属病院が暴力団追放功労団体表彰を受賞しました	18
	10年後の医療にむけた医大生の提案が「県内大学生が創る奈良の未来事業」で 最優秀賞を受賞、また日本医師会でも表彰されました	19
	第111回日本精神神経学会学術総会で優秀発表賞を受賞しました	19
	第111回日本精神神経学会学術総会で臨床研修医部門 優秀発表賞を受賞しました	19
	第33回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会において優秀ポスター賞を受賞しました	19
	第40回健康開発財団助成研究 優秀賞を受賞しました	20
	第20回日本病態プロテアーゼ学会学術集会でYoung Investigator's Award of JSPP2015を受賞しました	20
	第119回日本循環器学会近畿地方会で学生・初期研修医セッション優秀演題賞を 受賞しました	20
	Annual Meeting of American Urology Association 2015で AUA Best Poster Winnerを受賞しました	20
	第24回日本癌転移学会で優秀ポスター賞を受賞しました	20
事務部門紹介	総務課／経営企画課	21
Information	インフォメーション・平成28年度入試日程	22
	2015年度奈良県立医科大学大学祭 白檀生祭～もっと地元にも～	23
	メディア掲載情報	23
	編集後記・広告	24

オープンキャンパス2015を開催しました

去る8月1日(土)医学科、2日(日)看護学科のオープンキャンパスを開催しました。

両日ともに晴天に恵まれ、2日間で1,000名近くの方にご参加いただき、大盛況のうちに終えることができました。

1日と2日の細井学長による講演は「奈良医大で学び世界トップレベルの医師・看護師になる!」というテーマで、奈良医大の“現在”、そして、キャンパス移転やMBT構想に触れながら、今後奈良医大が目指す“方向性”や“将来”について講演されました。「大学の未来像を見据えた構想が熱い心と共によく伝わりました」「この大学がいかに魅力的で他大学と違うか知れて良かった」など、参加者は、今後奈良医大が世界に向けて発展していく姿をイメージし、期待を膨らませ、感銘していたようです。

また、2日の軸丸看護学科長による講演は「看護・看護学とは何か」というテーマで、看護学が始まった“原点”から、これからの“看護のあり方”について講演されました。「看護の本当の意味や看護学の意味など、知らないことを沢山知ることができ、看護についてもっと知りたいと思うことができた」「看護についての様々な高度な知識を学べるとわかった」など、看護学生や看護師になることを目指している参加者は、さらに思いが強くなっていったようです。



今年の『模擬ミニ講義』は、1日の放射線医学の吉川教授による「のぞいてみよう 画像による最先端医療」では、IVRをテーマにした内容で、「最先端の医療を知ることができて興味深かった」「こんな技術

があることを知らなくて、驚いた。こんなすごい先輩がいる大学はなかなかないんじゃないか」などの感想が寄せられました。

また、2日の老年看護学の水主教授による「百寿者の秘訣」では、昨年度に引き続き長寿をテーマにした内容で、「長寿の人々のことを知ること、高齢者看護に興味がありました」「ミニ講座では祖父母に伝えたいことが沢山ありました。長生きしてほしいです」などの声が聞かれ、両教授の講義により、参加者は、より医学・看護学に興味を持ったに違いありません。

本学在學生、本学附属病院の臨床研修医や看護師の卒業生に参加していただいた『先輩からのメッセージ』では、参加者は受験や入学後の学生生活、そして卒業後の自分をイメージしな



がら、熱心に耳を傾けていました。先輩たちの熱いメッセージにより奈良医大のよさが受験生にしっかり伝わったと思います。

毎年盛況の『施設見学』では、日頃学生が実験や実習を行っている実験施設や実習室、また附属病院の高度救命救急センター、メディカルバースセンター等の各施設や病棟などを見学しました。説明者の話を熱心に聞くだけでなく、多くの質問もしてきていました。参加者は普段見ることの出来ない場所を知ること、未来の自分がそこに立っている姿を想像し、より奈良医大に入学したいという想いを強くしてくれたと思います。



『相談コーナー』では、本学の教職員、在學生及び卒業生が、入試のことから学生生活、また卒業後の仕事の様子などについて、受験生や保護者からの様々な相談に応じました。

他には、栗田書店の協力による教科書展示コーナーなどを設け、担当者や学生が説明を行いました。



参加者への記念品として、「オリジナルバッグ」と「シャープペンシル」を配布しました。

オリジナルバッグについては、「奈良医大らしいデザインで良い」「バッグの色が水色で清らかでよかった」などの感想が寄せられ、また、大学のロゴが入ったシャープペンシルは、「モチベーションが上がりました」「奈良医大のロゴがあると受験に向けて頑張れる」と好評でした。

～教育支援課より～

開催にあたっては、学長をはじめ、対応いただいた各教職員、運営の手伝いをしてくれた学生ボランティアなど、多数の方々にご協力をいただき大きな問題もなく無事に終えることができました。厚くお礼を申し上げます。

西日本医科学学生総合体育大会が開催されました

～第67回西医体総合23位～ 準硬式野球部・優勝 弓道男子・第3位

今年も西日本医科学学生総合体育大会が開催されました。総合成績は23位で、準硬式野球部が優勝、弓道男子が第3位、また、男子バレーボール、バドミントン女子、水泳、空手道男子、剣道女子が上位の成績を収めました。

- ◆期 間：平成27年8月7日～8月19日
- ◆主 管：関西ブロック
- ◆代表主管校：大阪市立大学医学部
- ◆参加大学数：計44大学
- ◆競 技 数：20

団 体	競 技 名		成 績
	硬式テニス	男	
女			2回戦敗退
ソフトテニス	男		2回戦敗退
	女		2回戦敗退
サッカー			2回戦敗退
準硬式野球			優勝
バスケットボール	男		2回戦敗退
	女		1回戦敗退
バレーボール	男		ベスト4
	女		2回戦敗退
バドミントン	男		2回戦敗退
	女		4位
弓道	男		3位
	女		16位
柔道	男		ベスト16
卓球	男		1回戦敗退
	女		3回戦敗退
水泳	男		8位
空手道	男		ベスト8
剣道	男		ベスト20
	女		8位
ハンドボール			ベスト16
ラグビー			2回戦敗退
ゴルフ	男		24位
	女		18位
合気道			入賞なし
総合			23位

個 人	競 技 名		種 目 成 績
	バドミントン	女	
剣道	女		青木郁樹 優勝 上杉まどか ベスト16
	ゴルフ部	女	石垣亜耶 第4位
陸上部	女		藤本華奈 800m 第5位

準硬式野球部

医学科4年 久保 昂司

第67回西医体準硬式野球部門は、8月10日から8月15日に大阪府で開催されました。本大会において、私達野球部は優勝という最高の結果を残すことができました。



西医体優勝という大きな目標を掲げて練習し続けることで、自信を持って試合に挑むことができたのがこの結果の一番の要因だったと思います。

また、日頃からのOB、OGの方々のご支援、ご協力に加え、大阪府での開催ということで多くの方々にご声援いただいたことにも深く感謝しております。幹部が交代し、体制も変わりますが来年の西医体で再び優勝できるように部員一同、練習に励んでいきます。ありがとうございました。

弓道部

医学科4年 福永 幹

第67回西医体弓道部門は8月13日、14日、15日、16日に大阪府立総合体育館において開催されました。我々弓道部は本大会において男



子団体3位、女子団体16位という成績を残すことができました。また、8月14日、15日、16日に広島県立総合体育館弓道場において開催されました第11回西看大にも出場し、部員一同全力を尽くすことができた試合でした。

この1年間、西医体、西看大を第一の目標に据え日々練習してきた成果を出すことができたと感じております。西医体以外のほぼ全ての医学部の大会、練習試合で優勝を納めることの出来た昨年と違い、今年は医学部の試合では全く結果を残すことができず、焦りもあり、決して楽しいとは言えない練習が続いておりました。しかし合宿から「弓道を楽しむ」という原点とも言うべきポイントに立ち返り夏休みの練習を続けていき、徐々に的中が伸びていき、最終的にチーム一丸となって三位までたどり着くことができました。西医体という大舞台で弓道を楽しんで、かついい結果を残すことができたという今回の経験を通じて、部員一同また一段と強くなることができたように思います。

最後になりましたが、今年一年間ご援助ならびにご指導いただいた吉川部長ならびにOB、OGの先生方、そして射技や体配などのご指導をいただいた師範の先生、本当にありがとうございました。先生方の支えがなければこのような結果を残すことはできなかったと思います。来年の西医体、西看大ではさらに良い結果を残せるよう、部員一同さらに精進してまいります。本当にありがとうございました。

外科医における研究

消化器・総合外科学 教授 中島 祥介



臨床医における研究は、須く for the patient を本分とすべきであります。それでは侵襲的治療を行う外科医における研究はどうあるべきでしょうか。このことを考える上で原点となるのは、外科には三つの欠点があるということだと思います。

その三つの欠点とは、mortality と morbidity と clinical trial であります。歴史上どんな手術であっても、mortality、morbidity ゼロの手術は存在しないということ、そして新たな手技を開発したとしても、そこには just try して初めてわかる多くの問題点が存在するという事です。しかし、これら三つの欠点は、また同時に、これらを少しでも克服しようとする努力により、医学のみならず色んな分野の進歩に貢献しているものと考えられます。したがって、この三つの欠点の克服にこそ外科医としての研究の目標があるものと思っています。

一例として、私の恩師である故白鳥常男先生が開発された幽門温存胃切除術 (PPG) を紹介します。身体には不必要な箇所は何処にも無いはずであり、その一部を切り取るのが外科治療ですので、何らかの欠落症状を残すのが当然であります。遠位側胃切除を行う際、幽門括約筋ともに切除するのが常識とされてきました。その結果、ダンピング症候群、逆流性胃炎、残胃癌の発生などが短期・中期・長期的合併症として起ってくることがあります。白鳥先生は、誰もが考えつきそうで考えつかなかったこの幽門括約筋を残して胃を切除するという術式を開発されたのであります。このことにより、従来の胃切除に伴う種々合併症を防止できるということになります。しかし、この術式はイヌを用いた動物実験から生まれた術式であり、実際臨床で clinical trial してみると、色々問題点もあることがわかり、さらなる研究により進化して、現在では診療ガイドラインにも載る術式として世の中に普及し、患者さんのためになっているのであります。

さて、私の研究テーマは、欧米への留学を要する分野でありましたが、一貫して肝移植に関するものであります。私は、1975年に奈良県立医科大学を卒業し、第一外科(現消化器・総合外科)に入局しました。その時、先輩からもらった一冊の本『始発だけの線路』に涙が出るほど感動したのが、私と肝移植との出会いでした。この本は第一外科の先輩方の壮絶なまでの肝移植研究との闘いについて書かれたものであり、先輩の志しを引き継ぎたいと強く思った

のであります。私の肝移植研究の内容は多岐にわたり、限られた頁内では紹介しきれませんが、勿論、その根底にあるのは何れも mortality、morbidity を限りなくゼロに近づけるのが目的であります。その意味で、正常なヒト(ドナー)の身体にメスを入れる生体肝移植は、私を困惑させます。これは、どう考えても日本における必要悪であり、retrograde progress であると思えてならないのです。何とかしなければなりません。

また、現状では、機能しなくなった臓器を新しい臓器と入れ替えるという臓器移植は劇的な効果を発揮し、切除による欠落症状を完璧に防ぐ、究極の外科治療と言えます。しかし、その一方で、移植の研究を進めれば進めるほど、他人の細胞や臓器に一切依存することのない、患者さんの完全な自己完結型の医療が本来の医療の姿であると思うようになってくるのも本音であります。

このような観点から、これまでの研究を継続しつつも、現在さらに次世代の人工臓器や次世代の移植・再生医療の開発に向けたチャレンジを、後輩達とそして学内外の研究者とともに進めているところであります。このような研究に挑むにあたり、私にとっては、非常に励まされ胸が熱くなる言葉があります。“Some men see things as they are and say why. I dream of things that never were and say why not.” という John F. Kennedy の言葉であります。勿論、研究においてこのような dream を実現させるためには、三つの H (Head, Hand, Heart) と三つの A (Action, Awareness, Acceptance) が必要となることも充分承知しているつもりであります。

以上、外科医における研究は、三つの H と三つの A を肝に銘じて、伝統を重んじつつも、夢を持って常に新たなことにチャレンジし、何が真に for the patient であるかを良く考えることであると、教室の人達と話し合いながら、日々楽しく精進しているところであります。

新任教授挨拶



教授就任のご挨拶

内科学第三講座 教授 吉治 仁志

平成 27 年 7 月 1 日付で福井 博先生の後任として内科学第三講座の教授を拝命いたしました。奈良県における消化器、内分泌代謝診療の中核病院としての役割を果たすとともに、地域医療にできるだけ貢献することを目標として、院内はもちろんのこと地域の先生方とも積極的な連携のもと診療を進めていきたいと考えております。新臨床研修制度導入後、大学で研修する医師が減少していますが、大学には指導スタッフが充実し、大学でしか学べないこと、経験できないことが数多くあると考えています。「人を育てることが何よりも大切である」ということを第一に考え、一人ひとりが充実感を持って仕事ができるように、教室員と共に日々診療や研究に努力して参りますので、先生方におかれましては今後とも御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

臨床研究センターを開設いたしました

臨床研究センター長 笠原 正登

平成 27 年 10 月 1 日より、これまでの治験センターと組織統合し、新たに臨床研究センターが開設されました。

医療の進歩には新薬や新しい医療機器の開発が欠かせません。しかし、これらの開発には多くの時間と経験が必要です。我々はこのような研究者の医療開発を積極的に支援しながら多くのエビデンスを築いていきたいと願っております。

我々の活動の一つの目的は、革新的な治療法や治療薬、機器開発の支援にあります。産学連携事業の創出もセンターの重要なミッションです。変化の激しい臨床研究開発領域において研究者を積極的に支援するだけでなく、各企業との連携を促進し、橋渡し役として研究者や企業のポテンシャルを引き出します。臨床研究開発において重要なことは、シーズ探索から臨床応用まで、確実に到達する事です。そのために出口部戦略を見据えた臨床応用をシームレスにサポートできるようなセンター体制を確立しました。センターは 8 つの部門で構成しています。

治験推進部門では、これまで治験センターで中心的に行ってまいりました企業治験をはじめ医師主導治験の支援をいたします。臨床開発推進部門では、革新的開発のためのシーズ探索から臨床応用までの幅広い領域において適切なアドバイスを行いながら成果達成を目指します。また、臨床研究支援部門、データ・品質管理部門、生物統計部門では互いに連携しながら市販後臨床研究を中心に研究者のニーズに合わせた支援を、必要に応じて一部からすべての範囲で行います。革新的な物質の発見や機器の考案、臨床応用など特許性の強い案件に関しては知財マネジメント・産学連携部門が専門性を生かした支援の体制を構築しています。特に研究者のライセンス意識がない場合でも、我々の支援過程においてこのような発見・指摘が可能になります。

臨床研究において重要なことは、試験終了まで到達する事です。実際に、素晴らしいプロトコルを作製し、倫理委員会もクリアした試験でありながら、症例登録が上手くいかない研究や、症例登録までは行くけれども、調査票 (CRF) が回収できずに結局断念せざるを得ない研究が多いのが実情です。試験開始時の参加医師のあの熱気はとっ

くに冷めてしまって倦怠感だけが残るだけでなく、「最後まで達成できなかった」というような悪い噂も広まり、企業や参加医師からの信用もなくなる…といった経験をされる先生方も多いはず。我々は、このような悲惨な結果に終わらないように、企画段階からプロトコル作製、各種審査委員会構築、登録促進、データ回収・データマネジメント、統計解析までの幅広い分野に渡って、研究者に立ちはだかる困難を解決し、これまでの多くの経験と実績から研究相談から論文発表までシームレスなサポート体制の構築を目指しています。

大学のミッションで最も重要なことは教育です。特に、次世代である学生や、医療の受益者である患者さん、さらには県民に向けた教育は我々が重点的にエネルギーを注ぐ部分です。また、医師を中心とした研究者、医療従事者の教育も臨床研究をする上で欠かせないことです。当センターでは広報・教育・普及部門がその任に当たり、定期的に各方面を対象にした研究会ならびに勉強会を開催いたします。ご興味がありましたら、是非ご参加ください。

最後に、臨床研究センターは皆様の支援によって成り立つセンターです。どんな些細な相談でも結構ですので、お気軽にお立ち寄りください。

◆ 奈良県立医科大学附属病院臨床研究センター長
笠原 正登 連絡先：0744-29-8840
HP <http://www.naramed-u.ac.jp/~icats/index.html>



「奈良医大キャンパスだより」第2号を発行しました

キャンパス整備に向けた最新の動向を紹介します

本学の新旧キャンパスの整備に向け、地域住民とのコミュニケーションを充実させるためのツールとして、本年4月に新たな広報紙「奈良医大キャンパスだより」を創刊しましたが、今般、その第2号(10月号)を発行いたしました。

今号では、キャンパス整備の前提となる「奈良医大の目指すべき将来像」の検討内容や着工に向けた県の取組を紹介するほか、本学の地域と連携した各種取組やイベントなど、地域住民向けに様々な情報を発信しています。

「奈良医大キャンパスだより」は、近隣大字の全戸に直接投函にてお届けしていますが、その内容は、本学HP内(<http://www.naramed-u.ac.jp/university/gaiyo/campusdayori/index.html>)でも紹介していますので、ぜひご覧ください。

ここでは、「奈良医大キャンパスだより」今号の内容に関連して、キャンパス整備に向けた最新の動向を2点紹介いたします。

(1) 奈良医大の目指すべき将来像

新旧キャンパスの整備にあたっては、長期的視点から本学のあるべき姿を見据え、それを実現するために何が要るのかという観点で検討する必要があります。そのため、昨年度、県と共同で「医大の将来像策定会議」を立ち上げ、教育、研究、診療の分野ごとに、知事と理事長はじめ本学役員らにより将来像に関する広範かつ緻密な議論を重ねています。

今年度中には、主要な検討結果を取りまとめ、引き続き具体的整備内容の検討に入るべく、鋭意作業を進めることとしています。

(2) 着工に向けた県の取組

上記と並行して、今後整備内容が具体化し着工する際に工程を円滑に進めるための準備を進めています。

新キャンパスは平成33年のオープンを目指していますが、予定地には桜井市内に移転する県農業研究開発センターの施設が現存するとともに、敷地が不整形であるため、今年度、農業研究開発センター施設を除却するための設計や、敷地拡張のための用地買収に向けた調査を進めています。



「奈良医大キャンパスだより」第2号

コンテンツ

- ・キャンパス整備に向け、奈良医大の「将来像」を検討しています

Topics

- ・奈良医大の地域と連携した取り組み
- ・新キャンパス着工に向けた取り組み

イベントお知らせ

- ・奈良県立医科大学大学祭「白檀生祭」
- ・公開講座

第2号の内容

平成26年度計画の業務実績に対する評価について

第二期中期計画に係る平成26年度計画の業務実績について、奈良県公立大学法人奈良県立医科大学評価委員会による評価結果が通達されました。

26年度計画で定めた事業について、「おおむね実施している」と判断され、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としては「順調に進んでいる」という評価を受けました。また、項目別評価は、以下の通りでした。

【平成26年度項目別評価結果】

- I 地域貢献(教育関連) : 「順調に進んでいる」
(研究関連) : 「順調に進んでいる」
(診療関連) : 「順調に進んでいる」
- II 教育 : 「おおむね順調に進んでいる」
- III 研究 : 「順調に進んでいる」
- IV 診療 : 「順調に進んでいる」
- V まちづくり : 「おおむね順調に進んでいる」
- VI 法人運営 : 「順調に進んでいる」

なお、平成26年度評価結果、平成26年度業務実績報告書、中期目標、中期計画及び各年度計画については、別途ホームページに掲載しております。

(トップページより「大学概要」→「大学の計画と評価」→「業務に関する情報」)

(URL <http://www.naramed-u.ac.jp/university/gaiyo/kekaku-hyoka/gyomujoho2.html>)



7月24日「第1回評価委員会」



8月11日「第2回評価委員会」

奈良医大「未来への飛躍」基金の目指すもの

前号で奈良医大「未来への飛躍」基金の創設について紹介しましたが、本号では、前号でお伝えしきれなかった基金創設の趣旨や基金の理念・目的について、Q&Aの形で詳しく紹介します。是非ご一読いただき、本学の発展のため、一丸となつてのご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

理事長・学長 細井 裕司

Q1 何故、今、基金を創設し、寄附を募る必要があるのですか？

A 世の中の急速な変化が背景にあります。世の中の急速な変化の例として、以下に2つのことを挙げましたが、私達にはこの変化についていっただけではなく、先取りする意欲と能力が要求されています。

1)大学のクラス分け

以前は国によって大学のクラス分けは行われていませんでした。平等主義に基づいてどの国立大学も同じという建前で予算配分がなされていました。しかし、2013年6月17日の新聞で、「国の政策の変化、国が迫るクラス分け」との見出しで国が初めて選ぶ研究大学20校の記事が出ました。同年8月7日の新聞には選ばれた大学名が3つのランクに分けて掲載されていました。2014年9月26日の新聞には、スーパーグローバル大学37大学の選抜結果が載っていました。同年12月18日には、全国立大学を3分類するとの記事が載り、2015年9月8日には「国立大学法人運営費交付金における3つの重点支援策について」つまり、3分類の結果が発表されていました。私は平等主義から一転して競争の時代に入るやいなや、政策遂行のスピードの速さに驚きました。と同時に、奈良医大が単に存続するだけでなく、「真の大学」として1世紀先にも存続できる基盤を早急に作る必要性を痛感しました。

2)寄附文化の醸成と自助努力

国は複数の府省をあげて寄附文化の醸成に取り組んでいます。ふるさと納税制度も国が講じた主な施策の一つとして紹介されています(2015年6月5日の共助社会づくり推進のための関係府省連絡会議の資料より)。個人寄附の国別比較では日本の5182億円に対し、米国は25兆1790億円(2012、2013寄附白書より)と大きな差がありますが、その日本においても変化が起こり、国立大学法人への寄附の推移は、2004年が520億円であったものが、2012年には846億円と急速に増加しています(文部科学省)。多くの国公私立大学が寄附を募集しており、このことはインターネット上で確認できます。

今まで、国立大学は国が、県立大学は県が財政を負担するとされてきました。しかし、近年大きく変化し、自助努力が求められるようになりました。奈良医大の中期目標・中期計画においても、「大学移転を踏まえた教育・研究環境の整備・充実のため、広く寄附を募る。」と明記されています。

Q2 基金(寄附)の目的は何ですか？ また、その用途は？

A その究極の目的は、奈良県の医療を名実共に日本の最上位レベルにすることです。

奈良県の医療を最上位レベルにするためには、奈良県の医療の中心を担っている奈良医大のレベルを最上位レベルにする必要があります。全国に80ある医学部の中でも最上位レベルの医科大学になり、これを維持することが基金(寄附)の目的です。

この目的を達成するため、Q3のAに示しました事業を実行するために有効に使わせていただきます。特に優秀な人材の育成・確保

とその方々が十分に活躍するための環境・施設を整備します。奈良医大を最上位にするために最も重要なのは人材だと思っています。

Q3 奈良医大をどのようにして最上位レベルにするのですか？

日本を代表する最上位レベルの医科大学にする方策と密接に関連するものに奈良医大のMBT構想があります。まずMBTについて用語解説を行います。

(用語解説)MBT、Medicine-Based Town、医学を基礎とするまちづくり

奈良医大が提唱するこのまちづくりで解決を目指すのは、高齢社会、産業創生、地域の活性化です。

狭義には、奈良医大とその周辺のまちづくりを指します。大学医学部と大学病院本院の機能を最大限に活用したまちづくりを行います。単に医学と医療を行うための医科大学が橿原市に存在するのではなく、奈良医大はまちづくりの中心を担います。現キャンパスと新キャンパスに加えて、まち(MBT)の中に奈良医大の施設が点在し、医学に基礎を置く未来に向かっての安心、安全のまちづくりを行います。つまり、奈良医大はそのキャンパスに限定されたものでなく、周辺を含むMBTと融合一体となった医科大学になります。このまちでは、奈良医大の医師や看護師、医学・看護学研究者などの膨大な知識を用いた産業の創生、地場産業の活性化を行います。このようなコンセプトのまちづくりにおける奈良モデルを完成させます。

広義には、奈良医大周辺において得られたまちづくりの理念や成果を奈良モデルとして、奈良県全域、関西、全国、世界へと広げることによって各地にMBTができることとなります。MBT相互の連携の構築も重要となります。MBT構想はこのように奈良医大周辺にとどまらず、全国に広げることによって、日本の重要問題(高齢社会、地方創生など)を解決するためのモデルを医科大学が医学を基礎として構築する事業です。

奈良県、橿原市と共に行うこの事業は、すでに各方面から注目されています。内閣府の地域活性化モデルケースの指定を受け、奈良県と橿原市との協定が調印され、民間企業の参入が始まっています。

A 以下に奈良医大を最上位レベルの医科大学にする方策の例を挙げます。

1)公的資金の導入

国、奈良県、橿原市との連携により公的資金の導入等、行政の支援をますます強化します。

【現在までの状況】

2014年1月18日、「MBT、医学を基礎とするまちづくり」(水曜社)を出版し、MBT構想を発表しました。同年5月29日、MBTが内閣府・内閣官房の地域活性化モデルケースの地方都市型10件のうちの一つに指定されました。2015年3月20日、奈良県と橿原市が奈良医大周辺を含むまちづくり(MBT)に関する包括協定を締結しました。同年3月27日内閣総理大臣から奈良医大MBTを含む橿原市の地域再生計画が地域再生法に基づいて認定され、5月12日奈良医大が橿原市から地域再生推進法人に指定されました。同年6月5日奈良医大と橿原市がMBTを含む包括協定を締結しました。

以後、経産省と総務省から MBT に関する補助事業や調査委託事業（経産省はエネルギー関連、総務省は ICT 関連）が採択されました。

2) 民間活力の導入

奈良医大と奈良医大附属病院の機能を生かして、奈良医大とその周辺に民間活力の導入を図ります。医療関連の大学や企業の研究所を誘致し、研究学園都市の建設を目指します。

【現在までの状況】

現在進めている MBT 構想に、多くの民間企業が参入しつつあり、高齢社会への対応、産業創生、地方創生を目的としたコンソーシアムを近々発足させます。すでに幹事企業として富士通、凸版印刷、関西電力、南都銀行が決まっており、事務局を富士通総研に置いて、活動を開始しています。

3) 教育・研究能力の向上－奈良医大の改革と他大学・研究機関との連携

① 奈良医大の改革

「基礎医学や医療を行う医師や看護師の養成にとどまらず、社会の問題に医学の知識を使って取り組む医師、看護師の育成」を教育の目標とし、広く社会に貢献する医師や看護師を養成したいと思っています。

【現在までの改革】

入試改革、一般教育改革、大学院改革（学位審査）、奈良医大教育改革 2015、等

研究は主として各講座（科）単位で行ってきましたが、これに加えて複数の講座等が共同で行う研究と、大学として重点的に取り組む研究を加え研究体制を充実させます。

【現在までの改革】

知事との定期会議において、研究の方針が確立しつつあります。大学としての重点研究として、「地域に身近な研究」、「最先端の研究」、「医育研究」が上がっています。

② 他大学・研究機関との連携

他大学・研究機関と連携することによって、現在奈良医大にない能力を導入していきます。ハイレベルの研究機関と連携することによってますます研究能力を高めます。

【現在までの連携大学】

早稲田大学、奈良先端科学技術大学院大学、KNOW、オックスフォード大学、ルール大学、チェンマイ大学、等と連携しています。

（注）KNOW について：2014 年 9 月 1 日、関西の 4 公立医科大学・医学部で「関西公立医科大学・医学部連合（KNOW：Kyoto, Nara, Osaka, Wakayama の頭文字）」を結成し、教育、学術研究、地域貢献、国際貢献等の分野で連携、協力を進めています。

【現在までの連携研究機関】

産業技術総合研究所、国立循環器病センター研究所、等と連携しています。国立循環器病センター研究所内に奈良医大の大学院を開設し、奈良医大外の施設で奈良医大の大学院教育を行うようになりました。

4) 人材育成と人材確保

優秀な人材の育成と外部からの人材確保に力を注ぎます。そのためには新しい職種、職階、ポストの増設が必要です。

【現在までの状況】

入試改革を通じて東大理科一類、二類より高い偏差値の学生が多数入学しています（2016 年度入試用河合塾のデータより）。この優秀な学生の能力を奈良医大で開花させ、奈良県そして日本、世界に貢献する学生を育成しつつあります。そのための指導者の育成を行うと同時に、奈良医大の現有指導陣では指導力に不足がある分野では、外部からの優秀な人材確保に力を入れています。外部人材によ

り今まで奈良医大に無かったセンター（先天性心疾患センター、緩和ケアセンター、大和漢方医学薬学センター）等を立ち上げました。

5) 大学の組織等の改革

最上位クラスの医科大学になるべく奈良医大の中での改革を進めます。

【現在までの状況】

急速な時代の変化に対応すべく、組織改革など学内改革を行ってきました。その基本理念は責任の明確化と合理性です。2015 年 4 月 1 日に広範な学則改正を行いました。これにより大学のガバナンスが確立されました。

具体例として医学科の中にあつた一般教育を、教養教育部門として独立させることによって、医学、看護学の両学科の学生に最善の教養教育を行うことができるようになりました。また、従来からの科目としての「英語」を「臨床英語」に変更し、新たにネイティブスピーカの教授を迎え、「奈良医大臨床英語日本一」の目標のもと、医用英会話を中心とした実践英語を教えるようになりました。

6) 意識改革

教職員、学生が、「新しい時代に挑戦する意識」「奈良県医療と奈良医大を最上位レベルにする意識」をより一層持つように意識改革に努めます。

【現在の状況】

奈良医大の教職員や学生が変化する時代に即応できるように情報を発信しています。例えば、昨年は数回にわたって、若い医師に大学院で学位を取ることに重要性に関して他大学の情報を伝えたところ、大学院の志望者が大幅に増えました。また、常に自己の行動について、目的、目標（数値目標）をしっかりと意識し、その結果を評価する姿勢の重要性を説いています。

7) 同窓会、地域の方々、産業界等との交流－交流会館の建設

これからの大学は世間に開かれた大学でなければ発展は望めません。多くの人が奈良医大で交流できる施設の建設を新キャンパスに計画しています。同窓会活動をますます発展させるための同窓会拠点交流会館内に作る予定です。

Q4 奈良医大にとって、今何が最も重要だと思いますか？

A 一致団結だと思います。そしてその持続だと思います。

世の中が横並びから大競争時代に入り、全国 80 の医科大学・医学部すべてが全力で競争社会を生き抜こうとしています。奈良医大が「真の大学」として、「最上位クラスに分類される大学」として奈良医大 100 周年に向かって、また 22 世紀に向かって存続するためには、奈良医大に関係する方々、患者さんを含めて奈良の医療に関係する方々が一致団結して、奈良医大を奈良県の医療を最上位レベルにするという熱意と行動が最重要だと思っています。

奈良医大が最上位クラスの大学になり、奈良県医療が最上位レベルになり、それを持続するためには、基金は恒久的に運営される必要があります。当面の目標を 10 億円としましたが、このような主旨の基金ですから、この目標にとらわれることなく持続的なご支援をお願いいたします。

皆様のご理解・ご協力の程、よろしく申し上げます。
寄附の申込みは、申込書に金額、住所、お名前など数箇所ご記入いただき、記載番号まで FAX するだけで完了です。
年単位で適用される寄附金控除を早期に受けるためには、11 月中に申込みをいただく必要がありますので、ご注意願います。

「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました

「未来への飛躍基金」への募金を5月に開始しましたが、多くの方々からお申し込みを賜り、厚く御礼申し上げます。今号より、ご協力賜りました方々に感謝の意を表し、ご芳名を学報に掲載させていただきます。今後ともご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

平成27年9月30日現在

【個人】

◆1,000万円以上

掲載を希望されないご寄附者様 1名

◆100万円以上1,000万円未満

岩佐 幸男 様	奥 正之 様	北口 勝康 様
北原 紘 様	車谷 典男 様	國分 清和 様
沢田 泉 様	沢田 陽子 様	高岡 孝一 様
藤井 繁昌 様	保利 喜英 様	守屋 亘 様
山内 昌孝 様		

◆30万円以上100万円未満

安達 英子 様	安達 一雄 様	泉 哲石 様
今村 知明 様	上田 章雄 様	植田 充治 様
大鶴 昇 様	大手 信重 様	小川 浩史 様
笠原 晋一 様	北村 紀文 様	小林 浩 様
相良威一郎 様	佐々木達郎 様	澤村 昭彦 様
城野 憲史 様	杉江 和馬 様	鈴木 順三 様
長 澄人 様	寺田 秀興 様	土井 涉 様
東條 俊二 様	鳥本 一匡 様	中井 邦秀 様
新田 望 様	濱口 卓也 様	原田 稔 様
梁間 真 様	古家 仁 様	細井 裕司 様
前田 昌穂 様	牧浦 洋 様	増山 晴幸 様
三橋 二良 様	宮田 重樹 様	八星 元彦 様
山本 智生 様	和田 誠 様	渡辺 裕之 様

掲載を希望されないご寄附者様 3名

◆10万円以上30万円未満

浅田 秀夫 様	浦 剛 様	北口 順子 様
小味淵智雄 様	清水 啓敏 様	長尾喜八郎 様
中瀬 裕之 様	中西 善久 様	細井 裕樹 様
細川 洋治 様	堀川 博誠 様	本山 靖 様
森川 東 様	八木 正躬 様	山下 昌宏 様

掲載を希望されないご寄附者様 7名

◆10万円未満

伊藤 武夫 様	岩崎 洋明 様	上田瑠璃子 様
植松 聡 様	大村 素子 様	尾上美恵子 様
来田 正子 様	木村 博子 様	熊倉 洋子 様
阪本 裕子 様	佐木山唯男 様	嶋屋 匡 様
関 京子 様	曾根 勝 様	津川 善彦 様
畑中 治 様	廣岡 修 様	本田麻衣子 様
三國 和子 様	森岡 陽子 様	山田理紗子 様
吉山由美子 様		

掲載を希望されないご寄附者様 18名

◆金額の公表を希望されないご寄附者様

芦田 恒雄 様	今中 麻伊 様	太田 一郎 様
岡島純一郎 様	小谷 了一 様	小林 佑三 様
杉原 誠一 様	高橋 美雪 様	田中 康仁 様
中込 将弘 様	西浦 嘉彦 様	濱口 幸三 様
濱口 賢子 様	林 幸平 様	林 洋 様
松田 京美 様		

【法人・企業】

◆100万円以上1,000万円未満

医療法人社団誠医学会 安東内科医院 様
医療法人 誠幸会 わだ整形外科クリニック 様

◆10万円以上50万円未満

医療法人 長尾会・ねや川サナトリウム 様
公立大学法人 奈良県立医科大学労働組合 様
社会医療法人 平成記念病院 様
社会医療法人 松本快生会 様

◆10万円未満

医療法人 岩田レディースクリニック 様
医療法人 脳神経外科日本橋病院 様
公益社団法人 奈良県放射線技師会 様

(五十音順)

本学の未来への飛躍をサポートする「未来への飛躍水」が発売されました

前号でもご紹介したとおり、本学では創立70周年を機に、本学の「未来への飛躍」を確かなものにするため、教育・研究・診療の更なる充実を支援するための恒久的な基金「未来への飛躍基金」を創設いたしました。

この度、奈良県立医科大学労働組合において、皆様に気軽に「未来への飛躍基金」を支援いただけるよう、水を購入することが寄附につながる「未来への飛躍水」が発売されました。

使用されている水は、天川村の「ごろごろ水」であり、世界遺産に登録された大峰山直下の天然記念物「五代松鍾乳洞」より湧出する清水です。環境省が選定した日本名水百選にも選ばれており、花崗岩と石灰岩の特異な地層からミネラル分を適度に含むからだに良いおいしい水です。

価格は、通常1本151円のところ、1本100円と職員の福利厚生にも配慮して、かなり安く設定されていますが、購入いただくと1本当たり20円が自動的に「未来への飛躍基金」に寄附される仕組みになっています。

この水を購入いただける自動販売機は、スキルラボ棟の1階と3階、厳櫃会館の1階に設置されており、是非ご購入ください。



未来への飛躍水



自動販売機

心・技・体

奈良医大合気道部は男子 16 名、女子 25 名の計 41 名で、大人気でアットホームな雰囲気大切にしながら大学の道場で日々稽古に励んでいます。部員のほぼ全員が初心者ですが、先輩が一から優しく丁寧に指導してくれるので、最終的には部員全員が黒帯を取ることができます。

合気道の魅力の一つは袴をはけることです。合気道を始めて間もない頃は白帯であるのでまだ袴をはくことができないのですが、昇級・昇段してある一定のレベルに達すると袴をはけるようになります。その袴には自分の名前などを刺繍することができます、自分だけの袴を手に入れることが出来ます。自分の袴を手に入れた時の喜びは計り知れないものです。

また、合気道部では部活外での部員同士の交流も大切にしています、ご飯会・BBQ・スキー旅行といった様々なイベントがあり、学年や男女関係なく部員同士の仲が良いのが特徴です。他大との合同稽古もあり、他大の人との交流もすることが出来ます。もし少しでも合気道部に興味がありましたら、ぜひ道場まで足を運んでみてください。お待ちしております。



合気道部

- 部員 ▶ 41名
- 顧問 ▶ 永淵昭良(生物学教授)
- 主将 ▶ 坂元優太(医学科3年)
- 練習日 ▶ 月、水、金

真面目に楽しく

奈良医大の東洋医学研究会、通称(東医研)は一年生から六年生までの医学科、一年生から四年生までの看護学科の約 40 名で構成されているサークルです。サークルなので、ほとんどの部員は他の部活との兼部です。来たいときにいつでも来れる気軽な雰囲気です。

活動は普段は火曜日と木曜日のお昼休みに、一般教育棟で行っています。お昼休みは漢方が主です。学校の授業では東洋医学について学ぶことはほとんどありませんが、実際の臨床の現場では漢方は当たり前のように使われるので学生のうちから漢方のことを知っておくと非常に役に立つと思います。

お昼の活動以外に、文化祭での発表、これは漢方以外にもアロマやツボ、お茶、薬膳なども扱います。また地域参加型の薬草フェスティバルや、他大学の東洋医学研究会との交流の場である西虎会もあります。そして新歓、追いコン、薬草見学、BBQ もあります。

どれも自由参加であり、ラフで楽しい雰囲気のサークルです。先輩方も真面目でやさしい人ばかりで西洋医学についても教えてください。いつでも気軽に覗きにきてください。



東洋医学研究会

- 部員 ▶ 40名
- 顧問 ▶ 藤本眞一(教育開発センター教授)
- 主将 ▶ 小堀愛美(医学科4年)
- 練習日 ▶ 火、木

検索マスターへの道 (第5回)

検索テーマ	リドカインによる術後咽頭痛の予防
検索日	2015年9月28日

ある疑問に対し、医学情報データベースでどのように検索するのかを解説するシリーズ、今回は「リドカインによる術後咽頭痛の予防」をテーマに検索します。先日奈良県で開催されたコクランレビューのプロトコルワークショップで文献検索実習があり、図書館はそのお手伝いをしました。その時の検索テーマを使い、今回はコクランレビュー作成時に必要とされるような網羅的な検索を目指します。

今回も毎度おなじみ PubMed を使います。まず、検索テーマからすぐに思いつくリドカインと咽頭痛で検索してみます。「Lidocaine」、「sore throat」をかけ合わせると93件でした。この二つのキーワードだけでは重要な文献が漏れている可能性があるため、ここから考えられる MeSH や自然語を足して広げていきます。まず咽頭痛の MeSH を調べると、「Pharyngitis[MH]」が付与されるため、MeSH を追加します。また、リドカインを投与するのは気管内挿管をした後ということから気管内挿管の MeSH である「Intubation, Intratracheal[MH]」も追加します。「Lidocaine」は MeSH でもあるため「Lidocaine[MH]」も使います。ここまで MeSH を挙げたので、次は自然語について検討します。咽頭痛は「sore throat」のほかに「inflammatory」や「infectious」などが含まれることが考えられるため、それらを追加します。それぞれ語尾変化に留意し * をつけて前方一致にします。次に、気管内挿管には「endotracheal intubation」という言い方もあるため、自然語で追加します。「Lidocaine」も語尾に e がいない場合が考えられるため前方一致にしておきます。ここまでを式にすると以下ようになります。(表1)

(表1)

#1	Search ((sore* OR inflamm* OR infect*) AND throat) OR "Pharyngitis"[MH] OR pharyngit*	31237
#2	Search ((endotracheal OR intratracheal) AND intub*) OR "Intubation, Intratracheal"[MH]	37423
#3	Search #1 OR #2	37952
#4	Search "Lidocaine"[MH] OR Lidocain*	28270
#5	Search #3 AND #4	830

これでキーワードを広く取ることができました。次に、コクランレビューの検索では RCT 論文などエビデンスレベルの高い論文に限定するため、研究デザインで絞り込みをします。まず、臨床試験論文は Publication type (出版形態) の検索タグを使います。Publication Type は「Editorial」や「Letter」など文献の形式や、「Randomized Controlled Trial(RCT)」、「Meta-Analysis」などの研究デザインなどを絞り込む項目で

す。PubMed では検索結果の左側に Articles Type として Filter が出てきます。検索式で使用するタグは [PT] です。また「Clinical trial」には Mesh でも「Clinical Trials as Topic」があるのでそれも OR でつなぎます。そのほか、RCT 論文のタイトルや抄録に含まれると考えられる自然語「randomized」、「placebo」、「randomly」、「trial」をそれぞれタイトル・抄録限定タグ [TIAB]、タイトル限定タグ [TI] をつけます。ここまでを式にするとこうなります。(表2)

(表2)

#6	Search "Clinical Trial"[PT] OR "Clinical Trials as Topic"[MH]	1023084
#7	Search randomized[TIAB] OR placebo[TIAB] OR randomly[TIAB] OR trial[TI]	698651
#8	Search #6 OR #7	1324502
#9	Search #5 AND #8	331

最後に、集めた論文の中から動物を対象としたものを除きます。PubMed には人間だけでなく動物を対象とした研究の論文も含まれます。Filter の Species では「Human」と「Other Animals」を選択できるようになっています。検索式で除くには「Animals[MH]」が付与されているものを除きますが、その際「Humans[MH]」もあわせて付与されているものは除かれないようにしないとイケません。そのようなときは、まず「Animals[MH]」から「Humans[MH]」を NOT で除外し、「Animals[MH]」のみが付与されている論文を抽出します。それを全体から NOT で除外すれば、集めた論文のうち動物を対象としたもののみが除かれることになります。式で表すと以下のとおりです。(表3)

(表3)

#10	Search "Animals"[MH] NOT "Humans"[MH]	4045397
#11	Search #9 NOT #10	326

今回は網羅的に検索することを目的としました。普段の検索ならめぼしいものが数件ヒットすればよいですが、コクランレビューなどのシステムティックレビューや診療ガイドライン作成時にはいかに必要な文献を漏れなく集めるかが大切なステップの一つとなります。今回出てきたようなキーワードや絞り込みの工夫をして、漏れの少ない検索を目指しましょう。ちなみに、コクランレビューを作成するときには PubMed だけでなく、PubMed 未収録の文献を集めるためにコクランセントラルや Embase などを使うよう求められています。そんなに丁寧に作られるコクランレビューってどんなもの？ということで今回はコクランレビューやセントラルを収録しているコクランライブラリーについて特集したいと思います。どうぞ期待！

.....
 (お詫び) 2015年7月号の図書館だよりでは「検索マスターへの道(第3回)」となっていますが、正しくは「第4回」でした。お詫びして訂正します。

イノベーション・ジャパン2015 ～大学見本市&ビジネスマッチング～

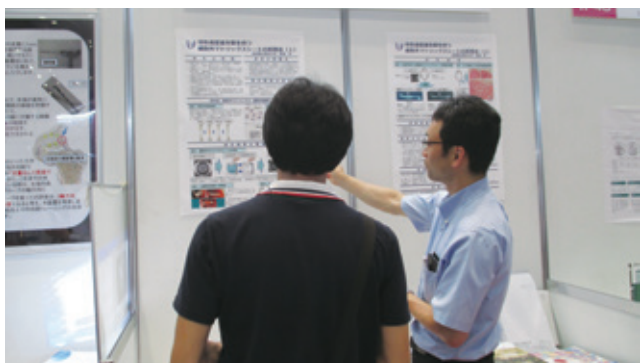
8月27日(木)・8月28日(金)の2日間、東京ビッグサイトにおいて、大学や公的機関等から創出された研究成果の社会還元、技術移転を促進すること及び実用化に向けた産学連携のマッチング支援を実施することを目的として「イノベーション・ジャパン 2015 ～大学見本市 & ビジネスマッチング～」(主催：国立研究開発法人 科学技術振興機構 (JST)、国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)) が開催されました。

本学は、JST による採択をうけ、右記シーズを大学見本市に

出展しました。当日は採択者がブースでポスターやサンプルを用いて解説を行った他、展示ホール内において多数の聴講者に対しショートプレゼンを行い、企業等と名刺交換等、活発な産学官交流を行いました。今後、これらの企業等とマッチングが生まれることを期待しています。

「骨形成促進効果を持つ細胞外マトリックスシートの利用法」

健康政策医学 准教授 赤羽 学



来場者に解説する赤羽准教授 (右)



ショートプレゼン会場の様子

IT pro EXPO2015・デジタルヘルスDAYSに細井学長が特別講演

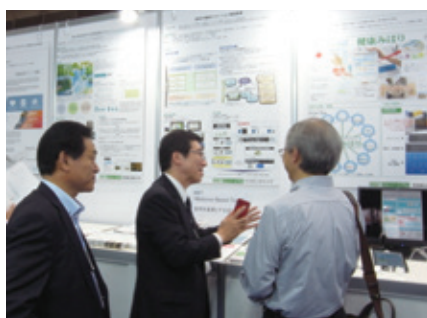
9月30日(水)～10月2日(金)の3日間、東京ビッグサイトにおいて、IT pro EXPO2015・デジタルヘルスDAYSが開催されました。これは、クラウド、モバイル、ビッグデータ、ソーシャルといった技術の普及に加え、IOT (Internet of Things)、人工知能、ロボットなどに象徴される技術革新をどう生かすか、そのためにどんな課題を解決する必要があるかをテーマに各企業が出展。本学は奈良県立医科大学 MBT (Medicine-Based Town) コンソーシアムとして参画

企業と共にブース出展し、産学官連携推進センター梅田智広研究教授が、プレゼンなどを行い本学のMBTを紹介しました。



プレゼン中の梅田研究教授

更に、特別講演として、10月1日には、細井裕司学長が「MBT (Medicine-Based Town) 医学を基礎とするまちづくり」と題して講演し、医学、看護、医療の力を結集して解決するモデルを奈良において実現する取り組みを紹介するとともに、出展ブースにおいては、企業等との交流・情報交換を行いました。



奈良医大 MBT コンソーシアムブースにて来場者に解説する細井学長と山下理事



講演中の細井学長

学報編集委員会 からのお知らせ

寄稿記事募集案内

「学報」では、奈良県立医科大学や附属病院に関する出来事、お知らせ等を掲載いたしておりますが、これらに関連する記事を皆様からも広く募集いたします。

ご興味のある方は内線2206までお問い合わせください。

なお「学報」は毎年1、4、7、10月に発行しており、本学教職員・学生のみならず本学同窓会会員や関連大学・病院等にも配布しております。



チェンマイ大学附属病院看護師の受入研修を実施しました

6/15～7/9

チェンマイ大学との学術交流協定に基づき、チェンマイ大学附属病院の看護師2名が研修のため来日し、6月15日～7月9日まで本学附属病院等で受け入れました。

院内では、創傷相談室、精神医療センター、感染管理室、中央手術室、集中治療室、救命救急センター、整形外科病棟で日本の最先端の看護ケアについて研修しました。

また、奈良県看護協会をはじめとして、県内の看護・介護施設を見学するとともに、橿原市の地域包括支援センターが主催する「脳の若返り教室」にも参加し、日本の老人介護の現状を学びました。

お二人は滞在期間中に多くのスタッフと交流を深め、我々もまた、お二人との交流を通して異文化への理解を深めることができました。

チェンマイ大学附属病院からの看護師受

入は初めての試みであり、看護部、看護学科、看護実践・キャリア支援センターの連携により成功裏にプログラムを終えることができました。研修を受け入れて下さった皆様、通訳業務をお手伝い下さった皆様、研修に携わって頂いた全ての皆様に感謝申し上げます。

(受入看護師)

◆ Jittanom Sangkhanan, RN ,Ph.D.

整形外科看護師、看護サービス国際業務スタッフ

◆ Suranee Chanritwattana, RN 成人患者上級看護師



中央手術室にて



感染管理室にて打合せ



心臓外科病棟にて

平成27年度ナラ・シェイクアウト(奈良県いっせい地震行動訓練)を実施しました

7/9

平成27年7月9日(奈良県地震防災の日)午前10時30分に本学の各所属において、一斉に地震から身を守る行動の訓練を行いました。ナラ・シェイクアウトは同日同時刻一斉にそれぞれ

の場所において、地震から身を守る行動の確認を行うことにより、県民や事業者の防災意識を高め、地震災害のリスクや地震発生時の安全確保行動に関する理解を促進し、自助、共助の防災対策に取り組む契機とすることを目的として、奈良



附属のなかよし保育園でも訓練を実施しました

県防災統括室が提唱しています。本学では、その一環として備蓄食料の在庫チェックも行いました。



備蓄食料在庫チェックの様子

第5期かしはら健康サポーター養成講座開幕

7/17

7月17日に第5期かしはら健康サポーター養成講座が開講されました。この講座は、平成23年に第1期がはじまり、橿原市と連携した地域貢献の一環として、本学教員と橿原地区医師会の医師が講師となって、健康づくりに役立つ知識が学習できる場として開催しています。この講座で学習した方々が習得した知識を周囲に広げていくことで、地域の健康をサポートする存在になっていただくことを目指しており、講座では実際に体を動かしたりする場面もあるなど、内容もわかりやすく好評を得ています。修了者は、この講座がきっかけでウォーキングを始めたり、健康管理の知識を周囲に広めるなどしていただいております。実際の地域の健康づくりにも役立っています。



平成27年度看護学科国際看護論Ⅱ チェンマイ海外研修報告 8/12～20

平成27年度看護学科の国際看護論Ⅱ海外研修を8月12日～20日、本学の交流提携校であるタイのチェンマイ大学看護学部で実施しました。学生は7名(学部生4名、編入生3名)、事前にタイの文化や医療制度を学習し参加しました。チェンマイ大学での研修は2007年から継続的に行われており、異文化における看護と医療の実際をグローバルな視点で見学し考察することを目的とし実施しました。

研修は、タイ国の「地域医療システム」はもちろん「救急や急性期での最新医療」、「看護教育」、「伝統医療・補完代替医療」、「HIV/AIDS」の講義を受講し、各施設の見学を行いました。見学施設はチェンマイ大学の医療施設、コミュニティヘルスセンター、タイ伝統医療治療院、外国人対象のマッサージスクール、Suan Prung Hospital(北部タイの精神科拠点病院)等でした。大学病院の病棟見学では、7月に本院で研

修をしていた看護師から案内を受け、日本との違いも含めわかりやすく説明して下さいました。受講生は講義で学んだ内容と関連した施設を見学し、実際に施設のスタッフに質問することで、施設の特徴や、日本との違い、その施設が求められる文化的背景を考える機会となり学びを深めることができました。最終日には、チェンマイ大学の教員と学生で英語によるディスカッションを行い、受講生は積極的に発言し研修の学びを自分たちの言葉で伝えることができました。

なお、今年度、本研修は日本学生支援機構の支援を受けることができ深く感謝しております。



修了式での記念撮影

東日本大震災被災地の福島県内で学生がボランティア活動を行いました 8/17～22

本学の学生17名(医学科10名、看護学科7名)が、平成27年8月17日(月)から22日(土)の間、福島県南相馬市等でボランティア活動などを行いました。仮設住宅での傾聴活動や福島県立医科大学での災害医療セミナーへの参加、また、南相馬市や相馬市等の被災地域の視察を踏まえ、震災から4年半経った福島の現状についての理解及び今後の支援のあり方についての考えを深めました。

福島で感じたこと 医学科1年 上野 芳聖

阪神淡路大震災に遭った私は、長い避難生活の中で、学生ボランティアの方と触れ合ったことは今でも鮮明に覚えており、機会があれば福島に行きたいと願っていました。

訪問した仮設サロンでは、皆さんが初対面の私達にも気さくに話して下さい、その明るい表情に逆に元気をいただきました。ふと掲示板を見ると、「生きていれば何かいいことがあるよ。故郷に帰る日までみんなで頑張ろう。」というスローガンが目に入りました。辛い経験をしながらも、皆で力を合わせ前向きに過ごす様子を心で打たれました。私達の活動が今の生活のちょっとした息抜きになっていると感じ、こうした所に学生ボランティアの意味があると思いました。また、バスの中から視察

した帰還困難区域は、車は走っているものの誰一人歩いておらず、処理済みの汚染土が未だに大量に積まれており、福島の方々の不安を感じることができました。更に、津波被害に遭った街は今も空き地のままで、草が生い茂り、月日の流れを感じました。Jヴィレッジ見学で、多くの人が原発事故収束に向けて働いているのを知りましたが、元の福島に戻るには暫く時間がかかりそうです。福島医大で学んだ放射能についての正しい知識をしっかりと伝え、福島の人々の心に寄り添うことが復興につながると思いました。



6年一貫教育授業「コンソーシアム実習2 (早大・奈良医大連携講座)」が開講されました 8/18～22

本学と早稲田大学が連携協力に関する協定を結んだ2008年の12月以来、毎年度、開催校を代えて実施していますが、今回は8月18日から22日まで「地域医療概論～へき地医療の現状と将来：奈良県の現場から～」をテーマに、本学において早稲田大学・奈良県立医科大学連携講座が開講されました。

講義は、本学の今村知明教授が「地域医療政策」及び「病院での経営改善」、岡本希講師が「疫学入門」を、早稲田大学からは、野口晴子教授が「医療経済」、山口齊昭教授が「医療法」、土田友章教授が「医療倫理」、長谷川恵一教授が「医療経営」について、それぞれ行いました。また、県立五條病院へき地医療支援部長の中村達先生には、へき地臨床医としての視点から、奈良県医師会副会長の竹村恵史先生には、地域臨床医の視点から、ご講演いただきました。

さらに、最終日には場所を天川村に移し、地域医療の現場である天川村国民健康保険直営診療所を見学した後、県内

診療所の所長、研修医、看護師、他大学の医学生、行政職員等とともに「地域医療ワークショップ」に参加しました。グループワークでは、へき地で働く際に考えられる問題点やその対策について、これまで学んだことを踏まえそれぞれの立場から熱心な意見交換が行われました。最後は、福井県高浜町にある高浜町国民健康保険和田診療所の井階友貴医師から地域医療に取り組んでこられたご自身の貴重なお話をうかがい、今年度の早稲田大学・奈良県立医科大学連携講座は終了しました。



第4回大和漢方医学薬学セミナーを開催しました

8/27

8月27日(木)に臨床第一講義室において、本学と株式会社ツムラの共催による第4回大和漢方医学薬学セミナーを開催しました。今回は、「漢方による高齢者医療への挑戦」と題して医師、薬剤師、その他の医療者向けに分かりやすく、高齢者に対する漢方治療を紹介する内容で実施しました。

渡辺賢治特任教授(大和漢方医学薬学センター副センター長)から、高齢者医療における漢方の役割や漢方薬処方の方針などを、症例を交え、明日からでも使える漢方を分かりやすく解説されました。

当日は医師・薬剤師など多数の参加があり、質疑では、実際に漢方薬を

処方されている先生方からの実践的な質問など活発なやりとりがあり、セミナー終了後も講師を囲んでのやり取りが続きました。

大和漢方医学薬学センターでは今後もこのようなセミナーを開催し、漢方の普及を進めてまいります。



講演中の渡辺賢治特任教授

小児センターに海遊館がやってきました

8/27

医学科5年 稲垣 篤志

8月27日、海遊館のご協力のもと、附属病院小児センターの夏祭りを学生も参加して盛り上げました。衛生・安全面に配慮し、無事終えることができました。5月に入院中の子どもたちに海の生物をみせてあげたいと海遊館にお願いしたところ、約2,700通の応募の中から選んでいただけました。当日はラッコの毛皮やペンギンの卵などを展示し、折り紙や塗り絵、クイズ大会などで入院中の子どもたちには大いに楽しんでもらいました。少しでも子どもたちの励みになったのであれば、うれしく思います。私たち学生も数名お手伝いさせてい

ただしましたが、私たちも楽しみながら子どもたちと触れ合うことができました。最後に本企画に多大なご協力をいただいた海遊館の皆様、細井学長、古家病院長、小児センタースタッフの皆様、病院関係者の皆様に深く感謝いたします。



平成28年度科学研究費助成事業に係る講演会及び応募申請説明会を開催しました

9/8・11

9月8日(火)及び11日(金)に基礎医学棟 第一講義室において、平成28年度科学研究費助成事業に係る講演会及び応募申請説明会を開催しました。

8日(火)は創価大学 小山内 優 教授(元 日本学術振興会研究事業部長)に、「科研費戦略の基本」と題して、ご自身の日本学術振興会での経験に基づく科研費審査の実情や応募の戦略的テクニックに関して講演いただきました。

11日(金)は本学輸血部 松本 雅則 教授より「審査委員を経験した立場からのアドバイス」という演題で、審査委員を経験した視点からの応募書類作成時の注意点等について講演いただきました。

各回とも講演後には、研究費の不正使用、研究活動における不正行為の防止に関する説明と応募申請に係る事務手続きに

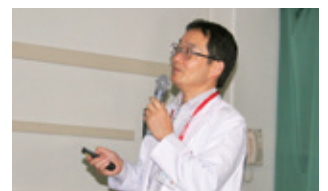
関する説明を行いました。

両日合わせて166名の参加があり、質疑では応募を検討している先生方から踏み込んだ質問がされるなど活発なやりとりがありました。

今後も科学研究費助成事業に係る研究費獲得・運用に向けて、様々な方法で更なるサポートを行ってまいります。



創価大学 小山内 優 教授



輸血部 松本 雅則 教授

平成27年度前期 公開講座「くらしと医学」を開催しました

9/12

平成27年度前期の公開講座を、9月12日(土)に奈良県橿原文化会館 大ホールにて開催しました。

平成6年度から始まったこの講座も、今回で35回目となり、今回の会場である橿原文化会館での開催も14回目となりました。

当日は、約400名と多くの聴講者を得て次のとおり進められました。



細井理事長・学長あいさつ

聴講者はメモを取るなど、熱心に聞いていました。また、日ごろの悩みなど、多くの質問もありましたが、演者の適切な回答に納得していました。

公開講座は、本学の地域貢献の一環として、「くらしと医学」をテーマに、広く県民の方に、医学・看護学の知識を解りやすく解説し、日々の暮らしに役立てていただくことを目的としています。27年度後期の予定は下記のとおりです。

～次回公開講座の予定～

◇日時：平成28年2月20日(土) 13:00~15:30

◇会場：奈良県文化会館 国際ホール

◆ 細井理事長・学長あいさつ

◆ 講演

①今村 知明教授(健康政策医学)

「食品の安全とは何か」—食品のリスクについて考える—

②弘中 康雄講師(脳神経外科学)

大切な人を脳卒中から守るために「予防・早期発見のポイントから最新治療まで」

③水主 千鶴子教授(老年看護学)

「住宅で暮らす認知症高齢者のための住環境への工夫と配慮」



解剖慰霊祭を執り行いました

9/17

平成27年9月17日(木)午後2時30分から大講堂において、第69回解剖慰霊祭が執り行われました。系統解剖及び病理解剖に貴重なご遺体を提供していただいた方々のご遺族、献体登録を申し出ている方々、奈良医大白菊会会員、関係機関の方々、教職員、学生等、合わせて約350名の方々が参列されました。

今年は新たに、系統解剖37柱、病理解剖35柱の計72柱の御霊を加えて、6,265柱の御霊をお祀りさせていただきました。参列者全員の黙祷の後、学長の祭文奉読、学生を代表して医学科2年生総代の階戸尊さんの感謝文奉読、参列者の献花と

続き、最後に学長からのお礼の挨拶により終了しました。

医師、看護師を志す者にとって解剖実習を通じ人体の構造を知ることは避けて通れない道です。尊い意思を持ち、医学の発展と医学教育のために自らの体を捧げてくださった方々の崇高なご遺志に改めて深い感謝の意を表しますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。



御礼の言葉を述べる細井学長

実験動物慰霊祭を執り行いました

9/18

実験動物慰霊祭を9月18日(金)に行いました。この行事は実験動物の尊い生命に対し、哀悼の意を表すもので、毎年実施しています。

学長の祭文奉読後、多くの関係教職員及び学生が献花を行いました。

私たち生命科学に携わる者は、動物の生命を尊重する必要がありますが、やむなく動物実験を必要と判断したときは、動物に対して博愛的な敬愛を払うことを忘れず、犠牲になる動物

数の削減に努め、動物の生命から得られた貴重な情報を研究成果として広く社会に還元できるよう努めなければなりません。



祭文を奉読する細井学長

大和漢方医学薬学に関する調査・研究助成事業の採択者が決定しました

今年度より、漢方医学薬学に関する教育・研究・診療活動の充実並びに県民の健康増進及び地域の活性化を推進するため、本学の
大和漢方医学薬学センターの設置趣旨に沿って実施される漢方医学薬学に関する調査・研究を募集し、審査の結果、下記のとおり採
択者が決定しました。

◆助成期間：平成27年度～平成28年度

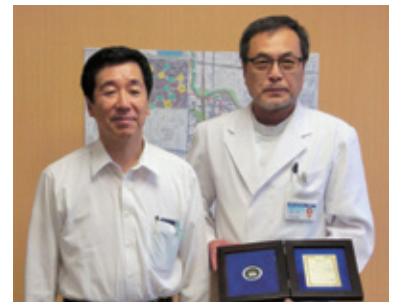
◆助成金額(1案件)：50万円(平成27年度の報告書により研究成果が評価されれば、平成28年度も50万円を上限に助成されます。)

所 属	職 名	氏 名	研究課題
耳鼻咽喉・頭頸部外科学	博士研究員	岡安 唯	十全大補湯と柴苓湯のシスプラチンによる内耳障害に対する抑制効果につ いての検討
免疫学	講師	北畠 正大	柿抽出物による炎症性腸疾患の病態改善効果の検討
内科学第二	講師	友田 恒一	漢方医薬を用いた慢性閉塞性肺疾患(COPD)に対する新規治療法開発の試 み：肺-消化管ネットワークからの探求
消化器・総合外科学	学内講師	野見 武男	大建中湯の肝切除後肝再生における臨床的効果の検証
泌尿器科学	学内講師	穴井 智	末期泌尿器がん患者に対する和漢薬の症状緩和効果

特別研究員等の書面審査において有意義な審査意見を付した専門委員として表彰されました ～消化器・総合外科学 中島 祥介教授～

本学消化器・総合外科学 中島教授が、日本学術振興会より特別研究員等の書面審査において有意義な審査意見を付した専門委員として表彰されました。

この表彰は、平成21年度からおこなわれており、今年度は書面審査を行った約1,600名の専門委員等のうち、表彰対象の2年目に当たる約600名の中から114名が表彰されました。中島教授は本学職員としては初めての表彰となります。



表彰された中島教授(右)と
細井学長

本学附属病院が暴力団追放功劳団体表彰を受賞しました

平成27年8月28日、本学附属病院が長年にわたり暴力団排除活動に尽力したことに対し、「第24回暴力団・銃器追放奈良県民大会」において、奈良県警察と公益財団法人奈良県暴力団追放県民センターより暴力団追放功劳団体表彰を受賞し表彰状が贈呈されました。



10年後の医療にむけた医大生の提案が「県内大学生が創る奈良の未来事業」で最優秀賞を受賞、また日本医師会でも表彰されました

健康政策医学教室今村教授の指導のもと、本学6年峯、野村が中心となって発足させた「学生から創る地域包括ケアシステム」の提案が、県の公開コンペ「県内大学生が創る奈良の未来事業」で最優秀賞を受賞し、来年度から県事業としてスタートします。また、第3回医学生・日本医師会役員交流会「地域医療に医学生はどう貢献できるか」の学生プレゼンテーションにおいても最優秀賞を受賞しました。

10年後団塊の世代が75歳以上になったとき、生活のサポートが様々に必要となる高齢者の数が急増していきます。病床数の制限もあり、今後、高齢者を地域で医療職、介護職、地域の人が連携して支えることが今以上に必要になってきます。根本的な多職種間のコミュニケーションの問題に着目し、10年後、医療、介護の提供の主体となる奈良県内の多職種の学生が集まり、将来的な課題にむけて解決策を考えていきます。取組みに参加する医療系・介護系学生を募集中です。また専門職のかたのアドバイスをお待ちしております。

お問い合わせ NARA IPECH 事務局
nara.ipech@gmail.com

〈掲載記事〉

・奈良県ホームページ

<http://www.pref.nara.jp/item/144371.htm>

・『医学生と日医役員が議論「医師の地域偏在はどうする？」』

2015年9月3日配信 m3.com

医療維新コーナー

<http://www.m3.com/news/iryoshin/354359>



第111回日本精神神経学会学術総会で優秀発表賞を受賞しました

精神医学講座 教室職員 岸本 直子

臨床心理士の資格をもつ本学精神医学講座の岸本直子氏が平成27年6月4日～6日に大阪市で開催された、日本の精神科領域では最大規模である「第111回日本精神神経学会学術総会」にて、演題「At Risk Mental Stateにおけるロールシャッハ・テストの特徴－統合失調症との比較－」を発表しました。

そして、大会で発表された全383演題の中から5名に与えられる優秀発表賞を受賞しました。日常臨床で丁寧に行われた心理検査により、二つの疾患(状態)の違いを浮かび上がらせた点が評価されました。



写真：右

第111回日本精神神経学会学術総会で臨床研修医部門 優秀発表賞を受賞しました

精神医学講座 後期研修医 山口 泰成

本学精神医学講座の山口泰成後期研修医が平成27年6月4日～6日に大阪市で開催された「第111回日本精神神経学会学術総会」にて演題「レビー小体型認知症に伴う精神症状に対する修正型電気けいれん療法の効果について」を発表し、臨床研修医部門 優秀演題賞を受賞しました。今後のレビー小体型

認知症治療の新たな選択肢の一つとして、電気けいれん療法の可能性を提示する貴重な発表となりました。これを励みに、さらに研鑽を積んでいただきたいと思っております。

写真：右から二人目



第33回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会において優秀ポスター賞を受賞しました

口腔外科学講座の柳生貴裕助教が、平成27年1月29日から30日に奈良県奈良市で開催された第33回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会において、口腔上皮内腫瘍の免疫表現型と発癌との関連を解析した研究により、優秀ポスター賞を受賞しました。柳生助教は、第32回大会においても同賞を受賞しており、2年連続の受賞となりました。

同賞は、展示発表を行った演題の中から、学術的価値が高く、医学の発展に寄与する優れた内容と認められた研究に対して授与されるものです。



第40回健康開発財団助成研究 優秀賞を受賞しました

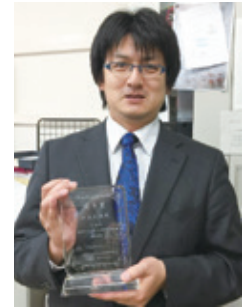
健康政策医学講座 博士課程 加藤 礼識

平成 26 年度の健康開発財団研究助成により実施した「湯治目的の重症患者が集う温泉地と地域医療体制の協調に関する研究」が、同財団の優秀研究賞に選ばれました。

この研究は、秋田県の人里離れた温泉地「玉川温泉」が「がんが治る奇跡の温泉」と呼ばれるようになり、がん患者が集まることによって地域の救急医療が崩壊した過程を検証し、地域の救急医療を守るために、温泉宿・湯治客・自治体・病院の 4 者間の協調体制に

ついて検討したもので、6 月発行の「温泉科学」誌に論文掲載されました。

この研究は、単に田舎の温泉地で起こった医療崩壊の研究ではなく、全国に多数存在する高齢化過疎地域の医療体制にも関連する問題の研究であり非常に重要なものです。今後も、地域医療政策に貢献できるような研究を継続していきたいと考えております。



第20回日本病態プロテアーゼ学会学術集会以Young Investigator's Award of JSPSP2015を受賞しました

産婦人科 助教 重光 愛子

この度は光栄にも「妊娠高血圧妊婦血清存在下の脂肪組織培養系におけるプロテアーゼと細胞傷害」という発表で Young Investigator's Award of JSPSP2015 を受賞させていただきました。小林教授をはじめ、成瀬先生やご指導いただいた先生方には深く感謝を申し上げます。

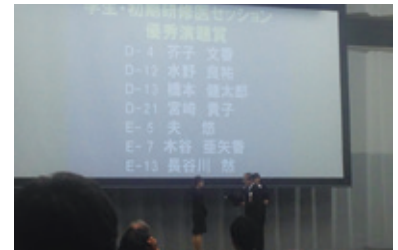
妊娠高血圧症候群に関する脂肪組織の研究は非常に多岐に渡り、まだまだ勉強せねばならないことが多くあります。今後も研究に励み、臨床につなげていけるように精進したいと思います。



第119回日本循環器学会近畿地方会で学生・初期研修医セッション優秀演題賞を受賞しました

第 1 内科の芥子です。この度、日本循環器学会の地方会の研修医セッションで優秀演題賞を受賞しました。今回、当科に入院したものの、状態が急激に悪化し、半日足らずで亡くなった患者さんについて、剖検で判明したことから推察された病態生理を発表しました。同じセッションの他の先生方の発表症例も珍しく興味深い内容ばかりでしたし、初めての学会発表であり、本当に緊張しましたが、第一内科の上級医の先生方に熱心にご指導いただき、病理診断学の先生方からも丁寧に教えていただいたため、内容についてはある程度自信を持って発表に臨むことが出来ました。この経験を今後の診

療に活かすとともに、これからも積極的に発表していきたいです。



Annual Meeting of American Urology Association 2015でAUA Best Poster Winnerを受賞しました

泌尿器科学講座 大学院生 桑田 真臣

本学泌尿器科学講座の桑田真臣大学院生による研究「Cancer stem-like cells and epithelial mesenchymal transition is responsible for failure in bacillus Calmette-Guérin therapy for primary carcinoma in situ」が、2015 年 5 月 15 ~ 19 日米国 New Orleans で開催された米国泌尿器科学会 2015 (Annual Meeting

of American Urology Association 2015) にて AUA Best Poster Winner を受賞しました。本学会は、全世界から 16,000 人を超える参加者を集めて行われた泌尿器学分野の最大の学術集会であり、AUA Best Poster Winner の受賞は顕著な業績に対して授与されるものです。



第24回日本癌転移学会で優秀ポスター賞を受賞しました

泌尿器科学講座 大学院生 桑田 真臣

本学泌尿器科学講座の桑田真臣大学院生による研究「Claudine-4 細胞外ドメインを認識するモノクロナル抗体による膀胱癌の分子標的療法の検討」が、平成 27 年 7 月 23 ~ 24 日大阪市で開催された第 24 回日本癌転移学会学術集会以て優秀ポスター賞を受賞しま

した。本学会は、基礎から臨床にわたる先進的癌転移研究の発表と討論の場として認められています。本研究は、学術委員の厳正な選考により優秀ポスター賞に選ばれました。



総務課(広報室・監査室・危機管理室 含む)

総務課は総合調整係及び情報推進係の2つの係からなり、総合調整係員の中には広報室、危機管理室、監査室を兼務している者もいます。

総合調整係は、役員会・教育研究審議会・所属長会議の事務や学内関係部署との連絡調整業務、学内行事の対応など他部署に属さない業務等も担っています。

情報推進係では、本学の情報化に向け、システムの導入・改修に関する企画立案や、システム導入・利用に際しての助言、安全で安定したシステム稼働に向けた維持管理・運用、教職員・学生を対象としたICTリテラシー教育等を担っています。

特に昨今問題となっている情報漏えい等情報セキュリティ対策には力を入れており、情報資産の一元管理に加え、教職員・

学生のセキュリティ意識向上に向けた研修等の啓蒙を定期的実施し、本学の情報セキュリティ対策強化を推進しています。

また、情報システムの活用にも積極的に取り組んでおり、ホームページを利用した情報発信や、ペーパーレス会議等先進的なシステムへの取り組みも行っています。

広報室は、本学広報誌「学報」の発行等、内外への情報発信の統括業務を行っています。

危機管理室は、従来から様々な事象に伴う危機に対処する危機管理委員会の事務局を務めてきましたが、今年度より防災訓練も担当することになりました。係員には警察OBや消防OBもいます。

監査室は、本学の運営方針及び計画に基づく執行状況等を監査することにより、効率的かつ効果的な業務運営に寄与して、本学の健全な発展を図ることを目的として設置されており、業務内容としては、監事による監事監査の補助、監査室独自の内部監査等となっています。体制としては、昨年度までは全て他所属との兼務職員でしたが、今年度より監査体制強化のため専

従職員2名が配置され、兼務職員3名と併せて5名体制となっています。

総務課では計19名の職員が勤務しており、一人ひとりが日々の職務に邁進しています。



役員会の様子



総務課の様子

経営企画課

経営企画課は、平成19年4月に設置された比較的新しい部署です。課員は、契約専門職員等を含めて21人で、女性が半数を占めることもあり明るい職場です。

病院の経営改善、医療情報システムの管理運営、診療情報管理に関する業務を行っており、病院執行部の会議(病院経営・運営会議)や全体会議(病院運営協議会)をはじめ、病院長のもとで取り組んでいる入院診療対策と医療安全・質評価・教育対策の2プロジェクトの事務局も担当しています。

係毎に近況を紹介します。

経営企画係は、入院診療対策プロジェクトで病棟医長・師長さんと一緒に病床稼働率の向上方策を検討しました。皆様のご協力により、中期計画上の平成26年度目標値を2.1%超える89.1%の病床稼働率を達成しました。来年度は、病院機能評価の受審事務を担当します。受審を契機に医療安全、医療の質が一層向上することを期待しています。

情報企画係は、医療情報部を兼務し、電子カルテシステムを中核とした総合医療情報システムの運用・構築を行っています。電子カルテシステムは、検査・放射線等多くの部門システムと接続しており、変更作業やデータの抽出業務で忙しい日々を送っています。また、近い将来に予定される電子カルテシステ

ムの更新では、使いやすく拡張性のあるシステムを目指します。

係員7名のうち6名が診療情報管理士の診療情報管理係は、退院サマリや入院診療計画書等の診療録の量的点検、DPC調査や院内がん登録業務を行っています。7月からは、病棟クラークさんとDPCコーディングの勉強会も行っており、今後は、診療録の質的点検にも取り組む予定です。

このように、私たちは「緑の下の力持ち」的な役割が多いですが、関係する皆さんと連携して病院経営の改善のため一層努力したいと思っています。



～肺の生活習慣病～

『COPD (慢性閉塞性肺疾患)』予防講演会&肺年齢測定

開催日：11月14日(土)9:00～12:00
 場所：安堵町福祉保健センター 2階 視聴覚室
 概要：県民のCOPD(慢性閉塞性肺疾患)に対する認知度の向上及び疾患に関する知識の普及と、COPDハイリスク者への助言指導を目的に公開講座でCOPD予防講演会と肺年齢測定会を開催します。
 講演者：友田 恒一 氏(内科学第二講座)
 対象：県民(定員なし。但し肺年齢測定：60名)
 問合せ先：奈良県郡山保健所健康増進課 母子・健康推進係
 TEL.0743-51-0196 FAX.0743-52-6095

第6回 人を対象とする医学系研究講習会

開催日：11月19日(木)17:30～19:00
 場所：大講堂
 概要：本年4月から施行されている「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」等の研究に関して、一般的に遵守すべき各種規制に加えて、研究活動における不正行為や、研究活動に係る利益相反等についての教育を目的とした講習会です。
 臨床研究を実施する方、臨床研究を支援する方、倫理審査委員会委員の方を対象としており、外部の方にも参加していただけます。
 講演者：笠原 正登 氏(臨床研究センター) 他
 対象：研究に携わる者(全職員) 他大学、他病院職員も受講可500名
 問合せ先：病院管理課 池本(内線3216)
 備考：研究に携わる者は、事前に本講習会を受講してください。講習会は年6～7回開催されます。少なくとも1年に1回の受講が義務づけられています。

～肺の生活習慣病～

『COPD (慢性閉塞性肺疾患)』予防講演会&肺年齢測定

開催日：12月5日(土)13:00～16:00
 場所：広陵町さわやかホール
 概要：COPDの認知度の向上及び疾患に関する知識の普及と、COPDハイリスク者の早期発見・早期治療を目的に、平成26年度より保健所と協働でCOPD対策事業を実施している広陵町において、COPD予防講演会及び肺年齢測定会を開催します。
 講演者：友田 恒一 氏(内科学第二講座)
 対象：県民(定員なし。但し肺年齢測定：40名)
 問合せ先：奈良県中和保健所健康増進課 健康づくり推進係
 TEL.0744-48-3034 FAX.0744-47-2315

学内特別講演

開催日：12月7日(月)18:00～19:00
 場所：厳樞会館 3階会議室
 概要：津本先生は大脳皮質視覚野の可塑性に関する研究のトップランナーであり、日本医療研究開発機構(AMED)のプログラムディレクターを務めるなど日本の脳研究を牽引されている先生です。本特別講演では、津本先生のこれまでのご研究と今後の脳科学の未来についてお話しいただく予定です。
 講演者：津本 忠治 氏(大阪大学名誉教授)
 対象：県民、本学教職員、大学院生、学部生 100名
 問合せ先：生理学第一講座 齋藤
 TEL.0744-29-8827 Mail.syasu@naramed-u.ac.jp

眼科学教室同窓会講演会

開催日：12月12日(土)16:00～17:00
 場所：シェラトン都ホテル大阪
 講演者：坂本 泰二 氏(鹿児島大学 眼科学教室教授)
 対象：県民60名程度(※入場無料、申込不要)
 問合せ先：眼科学教室 福田・高垣 (内線3433)

女子中高生の医療分野進路選択支援

～私もなれる！いのちを支える専門職～

開催日：平成28年1月11日(月・祝)13:00～17:00
 場所：奈良県文化会館
 概要：内閣府男女共同参画局と共催で、女子中高生を対象に医療専門職の女性の基調講演やパネルディスカッション、体験型学習を実施することにより、女子中高生の医学・薬学・看護学への進路選択を動機づけるとともに、女性の生涯就業継続を促進することを目的としたイベントを開催します。
 講演者：平井 都始子 氏(中央内視鏡・超音波部 准教授) 他
 対象：中高生、保護者、教員 100名(※入場無料、事前申込必要)
 問合せ先：女性研究者支援センター(内線2525)



平成28年度入試日程【医学部】

学科	入試区分	募集定員	出願期間	試験日	合格発表(予定)
医学科	推薦*1	38	平成27年12月15日(火)～12月18日(金)	平成28年1月30日(土)、1月31日(日)	平成28年2月9日(火)
	前期	22	平成28年1月25日(月)～2月3日(水)	平成28年2月25日(木)、2月26日(金)	平成28年3月8日(火)
	後期	53		平成28年3月12日(土)、3月13日(日)	平成28年3月22日(火)
看護学科	推薦*2	35	平成27年11月2日(月)～11月4日(水)	平成27年11月22日(日)	平成27年12月8日(火)
	社会人	5			
	前期*3	45	平成28年1月25日(月)～2月3日(水)	平成28年2月25日(木)、2月26日(金)	平成28年3月8日(火)
	後期*4				

*1 医学科推薦選抜試験は緊急医師確保特別入学試験13名と地域枠入学試験25名を実施します。
 *2 看護学科推薦選抜試験は地域枠のみ募集します。
 *3 看護学科一般選抜試験(前期日程)は、一般枠35名と地域枠10名を募集します。
 *4 看護学科一般選抜試験(後期日程)は、今年度より実施しません。
 詳しくはホームページで確認してください(<http://www.naramed-u.ac.jp/university/nyushijoho/index.html>)
 看護学科の推薦・社会人入試募集要項は9月中旬から配布中です。医学科推薦入試募集要項は11月上旬、その他の募集要項は12月上旬から配布予定です。

2015年度奈良県立医科大学大学祭 白檀生祭～もっと地元～

【プレイベント】

医大生とみんなで学ぼう!こどもの医療体験@イオンモール
橿原

日 時: 10/18(日) 10:00 ~ 17:00

概 要: 各ブースを回るスタンプラリー形式
救急車展示、医療体験、健康クイズコーナー、AED体験、医師による医療相談

【白檀生祭】

日 時: 10/31(土) ~ 11/1(日)

地域の方々楽しんでいただける企画が盛りだくさんです!

①シンポジウム@本学大講堂

10/31(土)

12:10 ~ 13:20

谷本道哉先生「運動処方や健康関連商品に
まつわる“都市伝説”」

14:40 ~ 15:50

尾木直樹先生 尾木ママ流「心に寄り添う教育論」

11/1(日)

10:30 ~ 12:00

平島 修先生「今必要とされる患者—医師との向き合い方とは」

13:00 ~ 17:30

ケースカンファレンス

大場雄一郎先生、志水太郎先生、平島修先生、松本謙太郎先生

対 象: 一般、医療従事者、学生



②よしもと芸人によるお笑いライブ@屋外特設ステージ

日 時: 11/1(日) 12:00 ~ 13:00

③岡田彰布元監督の「熱血!野球教室!」

@本学運動場

(雨天時は本学体育館)

日 時: 11/1(日) 13:30から2時間程度を予定しております。

対 象: 小学生



④なら・かしはら グルメフェア@本学 教養教育棟前駐輪場

日 時: 10/31、11/1 両日とも10:00 ~ 18:00

出店店舗: <10/31>柿の葉すし本舗たなか、炙り鯛だしらめん・つけ麺サクラ、曾崎豆腐店、珈琲亭、<11/1>柿の葉すし本舗たなか、炙り鯛だしらめん・つけ麺サクラ、やさい菓子工房Cocoai、珈琲亭

⑤出張!今井町衆市!

日 時: 10/31(土)、11/1(日)

⑥ステージ企画

日 時: 10/31(土)、11/1(日)

概 要: 高校生クイズ、ビンゴ大会、ダンスステージ等企画多数

⑦医学展示企画

教養教育・基礎医学の教室で実験や見学を実施。その他医学部ならではの体験コーナーを設置。

対 象: 小学生、中学生、高校生

⑧白檀生祭オリジナルキャラクター

『しょうとくた医師』くん!



一部企画は予約制となっております。お早めにホームページより詳細をご確認ください。 URL <http://narmed-u.wix.com/kashifu2015>

メディア掲載情報をお寄せください ~学報紙面で紹介します~

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生をこの「学報」紙面で紹介します。

掲載者	掲載メディア	掲載概要
細井 裕司 理事長・学長	奈良日日新聞 2015年7月3日(金)	奈良医大の方向性と戦略について、細井理事長のインタビューが紹介された。
	奈良新聞 2015年10月1日(木)	奈良医大の今後の課題や豊富について、細井理事長のインタビューが紹介された。
今村 知明 教授 (健康政策医学)	日本経済新聞 2015年7月8日(水) 朝刊一面「医いづる」	今村がかつて東大病院企画経営部長経験より、医局制度についてコメントした。
	関西テレビ 2015年7月15日(水) ゆうがたLIVE みんなのギモンのコーナー	食品安全の専門家として、食中毒についてコメントした。
岡本 左和子 学内講師 (健康政策医学)	日本経済新聞 朝刊(全国版) 「日曜に考える」の医療面コラム 寄り添う支える 4回連載 【1回目】2015年8月9日(日) 「患者第一」へ意思疎通 【2回目】2015年8月16日(日) 複雑な患者の思い、理解必要	岡本は医療コミュニケーション学を専門とし、医療従事者と患者の関係とコミュニケーションの実践に関する研究を行っている。それに基づいて、患者の視点についての医療コラムを4回連載で担当した。
	奈良テレビ放送「県政フラッシュ」 2015年9月11日(金)	岡本が講師をつとめる「がん患者サロン よしの」の講演が紹介された。
吉治 仁志 教授 (第三内科学)	近鉄ケーブルネットワーク 地上デジタルO11ch 「聞かせてドクター」 2015年10月3日~10月23日(土) 毎週土曜日	C型肝炎について治療法等を紹介した。

編集後記

日本人のノーベル賞受賞が続いています。医学・生理学賞にはオンコセルカ病（河川盲目症）の治療薬イベルメクチンの開発で大村智北里大学特別栄誉教授が、物理学賞にはニュートリノに質量の発見で梶田隆章東京大学宇宙線研究所教授が受賞されました。残念ですが村上春樹は文学賞を逃しました。しかし、彼はインターネットフォーラムで1月には「To be honest, it's a nuisance.」と言っていますし、また最近の著書「職業としての小説家」の中でも「何より大事なのは良き読者。どんな文学賞も読者に比べれば実質的な意味はない。」と述べています。われわれも医学研究にかかわるものとして、患者さんやその家族のために後世に残る研究をしたいと思います。また近い将来に同賞を受賞するロマンを抱きながら。

○岸本 年史（精神医学）
藤本 雅文（物理学）
京谷 陽司（薬理学）
山名香奈美（母性看護学）
西 幸江（看護部）
藤谷 威行（研究推進課）
鷺見 正人（教育支援課）
廣田 雅彦（病院管理課）
森田 英之（総務課・広報室）
阪田 聖基（総務課・広報室）
（○印は編集委員長）

学報バックナンバーは web サイト上でもご覧いただけます。
(<http://www.narmed-u.ac.jp/info/introduction/magazine.html>)